

不登校をどう理解するか ③

学校・社会との関係で捉える

不登校の原因を子どもの性格や親の子育て等、個人の問題と考えることに対して、不登校は社会の問題と捉えている方々もいます。その一人が、「登校拒否・不登校問題全国連絡会議」代表世話人の高垣忠一郎さんです。高垣さんは、日本の社会が変化していく中で学校が高速道路のようになった。不登校は、その警鐘であると捉えています。

■不登校の歴史

昔の子どもたちが学校に行かない状態を表す言葉は「怠け休み」でした。1950年代後半から、家の事情や怠学以外で休む子どもが出てきました。「学校恐怖症」（大きな不安を伴い学校に行けない症状）という名称が用いられるようになりました。当時の不登校は病気として見られ、治療するものだったのです。その原因としてでてきたのが「分離不安説」です。それは、家族のあり方や子どもの性格に問題があるという考え方です。

1960年代の高度経済成長期に入り、学校は子どもの「人格の完成」よりも社会に役立つ人材を育成する方向に変わっていきました。

1970年代になってオイルショックを境に受験競争が激しくなり、家でも「家の手伝いよりも勉強をきなさい」という親が増えました。

1960年以降、不登校の子ども数も激増し

ます。学校が子どもの成長や発達に合わなくなったのだと考えられます。

不登校の子どもが増えることで、原因を家族のあり方や子どもの性格で説明をすることができなくなり、とうとう文部省（当時）は「不登校はどの子にも起こりうる」（1992年報告）と認識を変えました。

■学校は高速道路？

高垣忠一郎さん（元立命館大学院教授）は、「学校が高速道路のようになっていった。自分のスピードで走ることが許されず、止まることも許されない。常に周りに合わせて走り続けなくてはいけない。自分が自分では行けない所になっていった。不登校は、そうした学校生活に疲れ切ってパーキングエリアに入り、自分の心を守る行動。」という説明しています。

子どもはパーキングエリアに入り、これからの進む道を考えているのかもしれませんが。心を癒し、もう一度高速道路を走るのか、それとも次のインターチェンジで高速道路を降りて、風景を楽しみながら自分のペースで走れる道を探しているのでしょうか。目的地そのものを問い直し、走る道を探しているのでしょうか。

不登校を社会や学校との関わりで見ると、今日の不登校支援の問題が浮き彫りになります。「学力向上」が重視され、子どもだけでなく教師自身が生き生きしていない学校…。その学校のあり方を変えないかぎり、不登校の子ども数が増えることは難しいと言えます。

物陰に育つコスモスは
光を求めて
茎が曲がってしまっており
花瓶にさしても
美しくは見えない
しかし、
土に根を張る
コスモスを眺めていると、
曲がってしまった茎に
光を求め
しなやかさを感じます
根っこも含めた
ありのままの
コスモスに、
健気に
力強く生きる
命の輝きを感じます
子どもと
向き合う時に大切なことは、
一部分を見るのではなくて、
全体として
子どもを見ることです
「早く学校に行けるように」とか
「他の子どもと同じように」と
と、解決だけを急ぐのではなく
「この子なりに」
一生懸命に現実を生きている
と、命の存在として見ることで
そうしたまなざしを感じた時
子どもは
周りの大人を信頼し
自分自身をゆるし
大切にしようとする
思いをもつことができます
自分を否定するのではなく
「きびしい現実の中を
自分なりによく頑張ってきた」

20周年イベントの「提言」で贈ったメッセージ

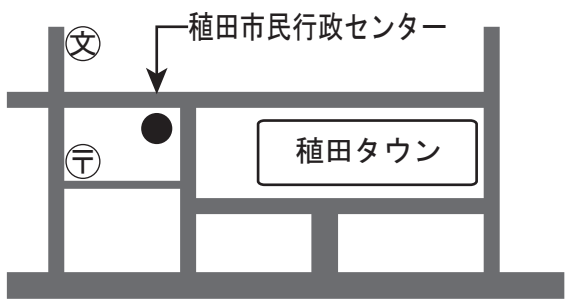
と、自分を認めるきっかけを
つかむことができます
そうしたまなざしに
支えられながら、
子どもは
自分が納得する花を
咲かせることが
できるのではないのでしょうか
一生懸命に生きてきた
子どもに学びながら
私たち大人も
自立する意味や
自らの生き方を
問い直していきませんか
そのためには
子どもによりそい向き合う
親や支援者にも
居場所が必要で
同じ立場でつながり
互いの思いを語り合う場が…
一時的ななぐさめや
適度な気休めではなく
同じ立場の親が
心を聴きとり
深い所でわかりあう
親の会もその一つの場です
わかりあえる
あたたかさ
つなぐ手のある
心強さは
何ものにも
代えられません
星の会も、
子どもや親に学びながら
みなさんと共に
歩んでいこうと思えます
星の会一同



星の会20周年イベント 最後の実行委員会

日時：2015年1月25日（日）
15：00～17：00
場所：植田市民行政センター 会議室1
（駐車場無料）
内容：①20周年イベントのまとめ
②会計報告
③12月7日をふりかえる（プレゼン）

世話人の方、実行委員の方は勿論、イベントに関わった方はどなたでも参加できます。交流の輪を拓きましょう。お茶やお菓子をつまみながら、楽しい会にしましょう。



世話人会のお知らせ
・1月25日（日）13：00～15：00
・植田市民行政センター
実行委員会の前に行きます。

おねがい

原稿をお寄せ下さい

- 例会に参加した感想
- 体験をまとめたもの
- 最近の子どもの様子
- 伝えたい情報
- 親の会の紹介
- その他不登校に関すること

＜メール＞toiawase@hoshinokai.net
＜FAX＞ 0972-24-3557

原稿は、メールかFAXか郵便で加嶋まで送って下さい。
掲載の際に匿名・イニシャルなど希望する場合は、そのことを書き添えて下さい。
また、紙面の都合等で、原稿を修正・省略することがあります。ご了承下さい。

次回
予告

- 昼の大分例会…2月7日（土）13：00～16：30
- 別府例会…2月7日（土）19：00～21：00
- 豊後大野例会…2月12日（木）19：00～21：00
- 津久見例会…2月13日（金）19：00～21：30
- 夜の大分例会…2月20日（金）19：00～21：30

変更する場合があります、
会報で必ず確認して下さい

次号の会報発送作業予定日は、1月29日（木）です